

会議録

1. 附属機関の名称 : 犬山城調査整備委員会
2. 開催日時 : 令和7年12月23日（火） 午後2時00分から午後4時00分まで
3. 開催場所 : 犬山市役所2階205会議室
4. 出席した者の氏名
 - (1) 委員 麓和善（委員長）、鈴木正貴、西形 達明、千田 嘉博（オンライン）
 - (2) 執行機関 滝教育長、中村教育部長
歴史まちづくり課 加藤課長、渡邊課長補佐、河寄主査補、荒金主査補、
中野主事
 - (3) その他 助言者 公益財団法人犬山城白帝文庫 成瀬淳子、宮田昭男
助言者 愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室 尾崎綾亮
支援業者 株式会社フジヤマ名古屋支店（史跡整備基本設計）
合同会社斎藤信吾建築設計事務所（便益施設基本設計）

5. 協議事項

- (1) 犬山城大手門枳形跡（犬山市福祉会館跡地）整備基本設計について
 - ・史跡整備基本設計について
 - ・便益施設基本設計について

6. 会議要旨

報告事項

- (1) 犬山城大手門枳形跡（犬山市福祉会館跡地）整備基本設計について

【史跡整備基本設計について】

○資料に基づき、史跡整備基本設計について事務局から説明した。

事務局： 第1回委員会での審議結果に基づき、法面の勾配を45度で統一し、遺構検出位置と計画高から資料1ページ目の割付図面を作成した。また、造成案の策定に伴い3つの条件を設定した。

条件1：保護層を10cm以上確保することとする。

各トレンチの遺構検出面と現況地盤高がトレンチごとに差があり、9トレンチでは非常に浅い部分で遺構が検出されていることが確認できた。遺構の保護層の考え方について文化庁と協議を行った結果、「具体的に最低何cmあればいいという基準はないが、工事、整備後の活用が遺構に影響を与えないようにする必要がある」、「この場所は福祉会

館の用地として使われており、駐車場として舗装され、車両などが出入りしていたという経緯を考えると、圧密というよりは工事による影響から遺構を保護するという観点を意識した方が良い」「工事の際に誤って遺構を壊してしまうリスクがないように考えると、最低でも 10 cm は保護層を確保する必要がある」「遺構の保護を考えた結果、周辺の道路よりも高くなるのであれば、そこからどう擦り付けるかを考えないといけない」という助言を受けたことから、遺構の保護層を 10cm 以上確保できる高さを造成レベルとした。

条件 2：周辺道路や隣接する民有地との高低差が極力生じないように配慮する。

条件 3：整備対象地内は、排水勾配を 1～2% 程度とれるように調整し、堀跡エリアの雨水は整備対象地内で処理する。

この 2 点については、株式会社フジヤマの担当者から説明いただく。

史跡整備基本設計業務受託者： 条件 2 については、周辺地形と高低差が極力生じないようにすりつけるため、北側の土塁エリアについては、土塁の北側で法面が整備対象地に収まらない範囲は土留め擁壁を設置する方針で検討を進める。南側の手口エリアについては、西側の民家と極端な高低差が生じないようにするため、エリアの中央付近で勾配の向きを切り替える拌み勾配を検討している。大手門枡形エリアについては、道路にすりつける場合、保護層の関係により敷設できる舗装材が限られてしまう課題があるため、現状の計画高とした A 案、敷地の道路側の方を改修し、道路側で高低差を作る B 案、整備対象地の計画高を上げ、境界には縁石を設置して、マウンドアップする C 案を検討した。

A 案は対象地の東側の道路と高低差なくすりつける計画で、外周部と高低差がないことからスムーズに敷地内と敷地外を移動できるが、保護層を 10cm 確保した場合、計画高まで 12 cm しか余裕がないため、アスファルト系舗装などの路盤材を必要とする舗装ができず、表層を張芝や碎石敷とした場合、歩行者の歩行に適さないことから、不採用とした。

B 案は道路と敷地内の外周部との高低差が抑えられることからスムーズな移動が可能であり、保護層も十分確保できることから、路盤層が必要な舗装も敷設が可能である。一方で整備対象地の計画高に合わせて外周部を改修した場合、南北方向に走っている道路部分の横断勾配が 6.2% 程度となり、南北に移動する来訪者に影響を与える問題があることから不採用とした。

C 案は B 案同様に保護層が若干確保できるためアスファルト系舗装などの路盤が必要になる舗装が設置可能となるが、外周部との高低差が生じてしまうという問題がある。ただし、北へ向かうにつれ計画高と道路との高低差が減り、北側バリアフリー動線の確保も可能となっている。

以上のことから、C 案で大手門枡形跡エリアの造成計画を検討している。

全体の計画としては、大手口エリアは南北方向の中央部分で拌み勾配をつけ、大手門枡形エリアはエリアの中央付近へ東西方向に拌み勾配として勾配を切り替える計画としている。堀跡エリアは現地形と合わせて、北から南へ水勾配を取れるように設定を検討している。敷地の南側は交差点もあり、高低差があると危険であることから、高低差がつかないようにするために 3% 未満程度ですりつけられるような計画を検討している。

これらのことを元に 1-①案と 1-②案を作成した。1-①案の場合、高低差は、大手門枡形エリア西側で最大で 45 cm 程度、大手口エリア北側で 7 cm 程度となり、堀底との平均高低差は 15.6 cm になる計画となる。

1-②案については、堀跡エリアの勾配を西から東に設定した場合の計画案となっており、堀跡エリアの西端に大型の解説版を設置予定となっていることからその手前をフラットとし、大手口エリアや便益施設から入れて、スペースも十分確保した上で堀跡エリアには緩く約4%以下の傾斜で入るような計画となっている。1-②案の場合、最大高低差が大手口西側で78 cm、最小高低差は大手門枡形跡で9 cmとなり、高低差の平均は約26.5 cmとなる。

条件3の雨水排水の計画については、雨水が滞留せず、来訪者が自由に見学できるように敷地内の雨水勾配は1%から2%程度を目安と考えている。雨水処理の考え方としては、雨水は元々周辺の道路側溝に排水されていたが、今回の整備では堀底を掘り下げることから、堀跡エリアから外周道路の側溝に接続させるには暗渠管の縦断勾配が十分確保できず、逆に道路側溝から雨水が逆流する危険性があることから、堀跡エリア内の雨水は整備対象地外に流すのではなく、エリア内でできる限り処理する方法の検討を行っている。旧福祉会館の地下ピットが存置されている場所は遺構が滅失していることから、雨水の一時貯留先となるよう地下ピットの直上に浸透枡などを設置することを検討している。ただし、現時点では基本設計であるため、浸透枡の規格や実際の配置の場所などについては現地で透水試験を実施した上で、必要なものを検討していきたいと考えている。

堀排水の勾配の都合上、雨水が溜まる懸念がある場所に関しては、遺構の保護を図りつつ暗渠排水もしくは集水枡などを設置し、必要に応じて最終的な地下ピット浸透枡につなげるように、各所に浸透施設や排水施設を設置したいと考えている。また、排水施設を設置する場合は極力景観に配慮し、化粧蓋などの設置を検討している。

現時点での流域の設定と計画雨量の暫定的な計算結果は流域合計0.22haとなっており、愛知県の開発許可基準に基づき降雨継続時間を10分と想定し、10分当たりで計算した結果、計画雨水量はおよそ30.54 m³となった。

今後の検討としては、計算結果に基づき現地で浸透試験を実施し、浸透係数を把握した上で改めて基準浸透量、設計浸透量を確認し、浸透枡や浸透側溝などの設定、各種構造計算を行い、実際に導入する浸透枡を決定していくという流れを考えている。

事務局： 舗装について、土塁については、土を盛ったうえで表面に芝などの植栽を施すこととし、土塁の遺構表示のうち、東西の本来は土塁が続いている部分についても仕上げは同様とする。大手口、大手門枡形及び堀については、敷地内で雨水を処理できるよう、透水性舗装とする。大きく分けると、5つの舗装があり、詳細については、株式会社フジヤマの担当者から説明いただく。

史跡整備基本設計業務受託者： 各舗装の概要について、A案のアスファルト系舗装については、道路などで使われている舗装材であり、耐久性にすぐれ、景観に配慮して顔料の添加などにより様々な色調に変えることも可能となっている。ただし、透水性舗装が目詰まりした場合は透水機能の低下等の懸念がある。

B案の土系舗装については、保水性があり、照り返しの低減効果など、環境に配慮した舗装材である。一方で経年によって水はけが悪くなり水たまりができやすくなったり、苔が生える等のデメリットがある。

C案のコンクリート系舗装については、主要骨材などによって様々な色をつけることが可能で、アスファルト舗装と比べると、夏場の舗装の表面温度が10度程度低いというメリットがある。一方で施工の際に養生期間が必要であったり、使用状況によっては

舗装表層の剥離が発生したりするなどのデメリットがある。

D案のコンクリートブロック系舗装については、アスファルト舗装と比べると蓄熱が少なく、日没後も冷却が早く行われるため、夜間の温度を抑えることが可能である。また工場製品のため精度が高く、迅速な施工が可能である。一方で路盤が悪いとがたつく恐れがあることと、舗装の見目が規格性のあるような外観となってしまうデメリットがある。

E案のスラグ舗装については、骨材が微細なものを使っていることから表面に水があふれにくく、透水性に特化した舗装材となっている。一方で5mごとに必ず伸縮目地を入れなければいけない点と表面が白くなる白化現象やひび割れなどが生じやすいデメリットがある。

事務局： 大手門枡形跡の整備後、大手口は管理用の車両等が入ることを想定しており、堀の中は高低差をつける関係から車両は基本的に入らないという想定をしている。それぞれの場所の使われ方、車両の出入などを考慮すると、大手口エリア、枡形エリアはアスファルト系、堀の中は土系舗装またはスラグ舗装が良いのではないかと考える。

事務局： 前回の委員会で承認いただいた地質調査については、現地での調査を行って、現在は土質試験を行っている。土質試験の結果のとりまとめは、2月初旬となる見込みであるため、次回の委員会でご報告させていただく。中間報告として、ボーリング調査の結果を報告する。

史跡整備基本設計業務受託者： 既存調査では土塁復元範囲でのボーリング調査が実施されていなかったこと等を踏まえ、土塁復元範囲で2箇所調査を実施した。ボーリング調査によって確認できた現地地層状況として、土質標本の写真と柱状図、地層推定断面図を掲載したが、GL-3m付近から洪積層が出現し、その上位には粘性土優勢層が分布している状況であった。このGL-3mよりも浅い粘性土優勢層でN値が1~2を示す箇所が確認されたため、支持力不足や圧密沈下のおそれのある箇所として、当該深度のサンプリングを実施し、現在、その土質試験を実施している段階となる。

現在実施中の土質試験は2月初旬に結果をとりまとめる予定となっているため、次回の委員会で土質試験結果の詳細を報告させていただく。

事務局： 軟弱な地盤が確認された場合、土を高く盛った箇所が沈下をする可能性があることから、その部分の土を把握したうえで、次回の委員会でご質問やご意見をいただきたいと考えている。

○委員等からの意見

委員長： 資料1-②について、西側に大型の解説版があり、その前方8mは勾配なしとし、その後4%の勾配の斜面があり、その東側から1%の勾配となっているが、大型の解説版以降は全体が1%の勾配ではだめなのか。説明版の前方8mを必ずしも完全なフラットにする必要はないのではないかと。1%程度の勾配があっても問題なく解説を読むことはできる。全体1%の勾配とした場合、現状の計画に比べて堀の東側の高低差は小さくなるのではないかと。また、平面図では便益施設の階段付近から勾配が始まるが、これも緩和できるのではないかと。

また、現状の計画では全体を西から東に向けた勾配とし、大手枡形エリアの際に排水

路を設けて浸透させる計画となっているが、堀の東側は木橋の下で排水を処理できる勾配とした方がよいのではないか。木橋の下であれば、排水路も目立たず、排水路の点検等が必要であれば、木橋の部分で検討した方がよい。

事務局： いただいた意見を参考に、なるべく側溝等は見えないように木製園路の下へ隠す方向性で再度計算を行う。再度作成した図面は次回の委員会ではなく、作成できた段階でお送りし、意見をいただく形にさせていただきたい。

委員長： 大手門枡形エリア東側については、遺構保護のために歩道との間に段差ができる形になっているが、縁石のようなものに勾配をつけたり、斜めに落したり、段差の縁石の幅をもう少し幅広くするなど、躓くことを防いだ方がよいのではないか。

土塁については、現状の計画では上部を水平に切ったようになり、斜面と水平面で角ができていますが、他の土塁復元の事例で角をしっかりと作ったことで土塁らしく見えなくなった事例がある。土塁は斜面と水平面との境目は角をしっかりと出すのではなく、土が流れたような形がよいのではないか。また、本来土塁が続いていた東と西の箇所についても勾配を作って同じように仕上げるのか。

事務局： 同じような仕上げを考えているのは平場の部分であり、東西の面は擁壁を考えている。できるだけ垂直にしたいと考えているが構造上厳しいため、若干勾配をつけることを考えている。

委員長： 擁壁の表面の仕上げについても検討していただきたい。

委員①： 舗装資材によって舗装厚が相当違う。コンクリートブロック系舗装は舗装厚が大きくなるとみられるが、かなり深くまで掘削する必要があるということか。

史跡整備基本設計業務受託者： コンクリートブロックの場合、路盤厚はメーカーの基準では10cmとなっているが、厳しい場合は、車が乗らない等の制約をつけた上で路盤圧を5cmに調整することは可能となっている。

委員①： その場合の強度は問題ないのか。

史跡整備基本設計業務受託者： 問題ないと考えている。

委員①： 地盤調査結果について、表層に少し柔らかい層が存在するのは気になる。過去にかなり高い盛土があった場合、圧密を起こす可能性があるAc層についても圧密は終了していると考えるのが普通であり、半分ぐらいの高さの土塁であれば、圧密に関してはそれほど大きな沈下はないだろうと言えるが、念のため圧密試験を追加で実施して確認しておいた方がよい。また盛土自身の円弧すべりが起こらない盛土構造にした方がよい。ただし、地盤支持力については盛土荷重の3倍の支持力が必要となるため、その点では引っ掛かる可能性があり、実施してみないとわからないが、調査を実施しておいた方がよい。

委員②： 土塁の表面はどのような仕上げを予定しているのか。

事務局： 芝や笹などの植栽で仕上げる予定となっている。

委員②： 芝や笹などの植栽をする場合、人が侵入しないという前提で作るということになると思うが、子ども等が侵入しない方策を考えないといけない。

事務局： 現在予定している 45 度の傾斜は子どもが上って遊ぶには危険な傾斜となっているため、人は入れない方針で考えている。以前は土塁の手前に低めの柵設置し、立ち入り禁止を明示する計画をしていたが、前回の委員会で、「堀と土塁は繋がっており、その場所に柵があるのはおかしい」というご助言をいただいたため、サインのような形で示すことを考えている。

委員 ③： 土塁の表面等は除いて、植栽の計画はしていないということによいか。

事務局： 基本的に多数の木を植えることはあまり考えていない。

委員 ③： 遺構を保護するために最低限は 10 cm の保護層は確保しようとする際に、大きな木を植えてしまうと根が保護層を突き抜けてしまうことがあるため、その辺りも考慮が必要である。

委員長： 舗装について、自然に見えるということと、大手口エリアについては車両が入ってくることから耐久性があるものにしたいという 2 点が重要だと思うが、その判断によいか。

事務局： 大きな方向性としては、大手口の方は固い舗装の方がよいと考え、アスファルト系舗装。堀の中は土の風合を出したいということで土系舗装の B 案か E 案のスラグ舗装とさせていただきたい。

委員長： 本来は地表面が土系舗装で、堀底は便宜上高い位置に盛ることから、本来の地表面が当時の面とかなり違う場合、違和感が出る場合がある。

ただし耐久性は必要であり、市の方針としては大手口と大手門枡形内がアスファルト舗装で、堀の中は土系舗装かスラグ系舗装としたいということは理解できる。ただし、スラグ系舗装の場合だと 5m 以内に伸縮目地が格子状に必要であることから、土系舗装の方よいのではないか。

事務局： 大手口と大手門枡形内は A 案、堀の中は B 案とさせていただく。透水性の確認等も含めて実施設計でさらに検証を行っていく。

【便益施設基本設計について】

○資料に基づき、便益施設基本設計について事務局から説明した。

事務局： 便益施設の基本設計について、資料 2 をもとに史跡犬山城跡整備基本計画における犬山城入口ゾーンの整備方針に立ち返って確認する。

計画では、この場所はかつての犬山城への入り口であり、来訪者が現地において、大手門枡形の構造、規模等を体感できるようにするため、史跡の本質的価値を構成する堀、土塁、大手門枡形を構成する構造物等の遺構の保存と整備を行うこととしている。

この中で、便益施設については、犬山城の価値と魅力の発信拠点及び史跡犬山城跡の見学の出発点として、次の 5 つの役割を担うために整備すると定めている。

①史跡としての価値を発信する場所

- ②犬山城について紹介し来訪者が学習できる場所
- ③犬山城を見学する際の起点となる場所
- ④江戸時代の大手口から城内への入場ルートを体感できる場所
- ⑤堀や土塁の規模を体感できる場所

この整備方針のもと、史跡犬山城跡の見学に必要な便益施設を建設するため、現在基本設計を進めている。そしてその中で、設計者の提案をもとに屋上の利用を計画している。なぜなら、屋上の利用は、犬山城の価値と魅力の発信拠点及び史跡犬山城跡の見学の出発点としての役割を補足し、より効果的に史跡整備の目的や史跡への理解に繋がるものであると考えるからである。

屋上利用は先の5つの役割のうち、

- ①史跡としての価値を発信する場所
- ④江戸時代の大手口から城内への入城ルートを体感できる場所
- ⑤堀や土塁の規模を体感できる場所

の3つの役割を果たすために不可欠な装置であると考えている。

今回の史跡犬山城跡（大手門枳形跡）の整備対象地は、大手門枳形跡の一部に限定されており、かつ、四方を現代の建物に囲まれている空間であるため、地上のアイレベルからの見学のみでは、大手門枳形跡の広さ、土塁や堀の全体形状や広がり、犬山城までの距離感等を十分に体験することができない。

そこに屋上テラスからの俯瞰的な視点を加えることで、堀や土塁などの立体表示だけでなく犬山城周辺がよく見渡せ、往時の入城ルートや大手門枳形跡から東西に延び行く堀と土塁を想像しつつ、現在と往時の風景を重ね合わせるように見学する体験が可能となる。

俯瞰的な視点による効果を高めるために、屋上には前回委員会で委員からご提案のあった『さわれる立体模型』を設置するほか、『屋上床面を使用した古地図の表示』や、『VR技術を用いたデジタルコンテンツの提供』などを行うことで、一層の史跡への興味と関心を引き起こすとともに、史跡見学者の学習効果を高め、理解の深化を促進することを目指す。

ここで、屋上からの視点で撮影した動画があるので、地上からの視点との違いを比較してご覧いただきたい。整備内容が分かりやすくなるよう、現地において堀や土塁などの境界にテープを張り撮影している。

(地上からの動画投影)

(屋上からの動画投影)

つづいて堀や土塁などの境界をより強調した比較用の画像もご覧いただきたい。

(比較画像投影)

屋上からの視点では大手門枳形跡の広さや、堀などの全体形状や広がりが把握しやすいことがお分かりいただけるかと思う。

また、誰でも史跡犬山城跡の価値と魅力を体験できるようにするためには、移動経路

のバリアフリー対応が必要であり、方法としてはエレベーター、階段昇降機、スロープの3つが挙げられ、その中で対応可能なエレベーター及び階段昇降機について現在検討している。

屋上利用の効果を高めるために、屋上に『さわれる立体模型』を設置するほか、『屋上床面を使用した古地図の表示』や、『VR技術を用いたデジタルコンテンツの提供』などを行うことで、一層の史跡への興味と関心を呼び起こすことを目指しているとお説明したが、他の史跡整備事例などで良い手法があれば、ぜひご教授いただきたい。

○委員等からの意見

委員①：市としてエレベーターを付けたほうが良いと考えているのか。

事務局：エレベーターと階段昇降機の両方を費用を含めて検討しているが、階段昇降機の場合は運用面でカバーする検討が必要となる。この場所に皆さんに上がってもらいたいと考えていて、そのためにはエレベーターが良いのではないかと考えているが、さらに検討を進めたい。

委員長：値段は3倍くらい違いがあるが、利用頻度を考慮すると、エレベーターの方が利用頻度は多くなる。階段昇降機は使われているところを見たことがない。やはりせっかく設置するなら費用の違いに対してどう考えるか、という点はあるが利用者が自由に使えるエレベーターの方が良いと思う。階段昇降機の方が良いという利用者はいないのではないか。

委員①：障害のある方は階段昇降機を使うのに抵抗があると思う。障害のある方なども、家族や友人と一緒に屋上に上りたいと思うのではないか。

委員②：階段昇降機の運用に係る職員の人件費も込みで考えれば、エレベーターの費用対効果を比較検討できるのではないか。

事務局：屋上利用にあたって、さわれる模型やデジタルコンテンツの提供などを検討しているが、他の事例などにか良いアイデアがあればご教授いただきたい。

委員長：そういった付随するものもあるが、高い視点から見ることで史跡の構造などが歴然とするうえ、天守も屋上から見たほうがよく見えるし、もしかしたら犬山祭の際も活用できるかも知れない。何かを作りこまなくても屋上を活用することにいろいろな効果があるのではないか。

また、屋外のエレベーターでガラス張りのものもあり、検討してみてもどうか。現在外壁色を舗装と同色とする提案だが、色についてこの委員会ですでにどうするか検討するより、設計者には基本的なコンセプトがあるので、設計者に任せた方が良いと思うがどうか。

事務局：事務局としてもそのように考えている。史跡の舗装と一体的に検討を進め次回ご説明させていただきたい。色はこれで決定ではないが目立たないようにしたい。

委員長： オブザーバーの皆さまのご意見はいかがか。

オブザーバー①： 専門的なことは分からないことが多いので、口を挟むところではないと思っている。このまま進めば良いものができると思う。

オブザーバー②： 舗装資材について、5案それぞれの耐久年数はどの程度なのか。値段の違いも教えてほしい。また、雑草と舗装資材の関係が気になるが、防草シートの設置などどう考えているか。便益施設については象徴的な建物として品格のある表現としてほしい。手すりが非常に目立つが、高さを低くすることや、素材についても検討ができないか。

史跡整備基本設計業務受託者： アスファルト系舗装の耐久性は良く、費用は4～5千円/㎡程度、合材に色を付ける場合は1万円/㎡程度、脱色アスファルトの場合は8千円/㎡程度となる。土系舗装の耐久性は他に劣り、車両の乗り入れなどはできない。費用は1万円/㎡程度となる。コンクリート系の透水性舗装の耐久性はアスファルト系と同等程度である。種石に化粧材を使うため費用は高く2万円弱/㎡程度となる。ブロック系舗装の耐久性は土系舗装以上アスファルト系舗装以下で、1万円/㎡程度となる。スラグ系舗装の耐久性は土系舗装よりはましである。費用は1.5万円/㎡程度となる。

土系舗装であっても草が生えてくることは原則ないが、クラックが入るとそこから草が生えることがある。

便益施設基本設計業務受託者： 手すりは当初スチール製のものを考えていたが、今はガラスのもので検討している。手すりの高さも抑えたいが、建築基準法上1.1mは必要である。目立たなくするために手すりの位置を外周から距離を取ることもできるが、テラスの面積が小さくなるのでバランスを考えて検討したい。

愛知県： 史跡の整備はそれぞれのメリット・デメリットを踏まえてこのまま委員会を通して検討を進めてほしい。便益施設について、屋上からの眺望を初めて見たが、アイレベルとは全然違うということが分かり、屋上に上がることは意味のあるものだと思つて改めた。バリアフリー対応としておそらくエレベーターを設置することになると思う。コスト面は厳しいところがあると思うがぜひ頑張って検討してほしい。

国庫補助事業なので文化庁岩井調査官とも打合せしたが、屋上利用できる便益施設は全国的に無いので、文化庁、市も説明を求められると思う。なぜ屋上利用が必要か説明できるようにしておく必要があると思う。

委員③： 改めて屋上の高さからの動画を見て、これは効果があるとよく分かった。堀や門の構造が上から見ることで理解しやすくなるうえ天守も屋上から見ることができ、これは素敵だと思った。今まで天守に近づいたところからが犬山城である、というイメージが多くの方にあったと思うが、ここに大手門があって犬山城に入っていくという本来のお城の持っていた大きなスケール感が屋上に上がることで体感できる。この歴史的な景色に価値があると思う。動画を見ると天守への眺望に掛かってくる電柱と電線が気になるので、屋上からの体験をしてもらうと言うなら、この見渡せる範囲だけでもどうにかならないかと思う。関係部署と協議して歴史的景観の魅力を高めていってほしい。

○その他

- ・令和7年度第3回委員会については、令和8年2月17日（火）午後1時30分から、犬山市役所205会議室で開催することを確認した。

○本委員会での主な決定事項

- ・舗装について、大手口エリアと大手門柵形エリアはA案のアスファルト系舗装、堀跡エリアの中はB案の土系舗装で検討を進める。
- ・西側の大型解説版前の勾配について、全体を1%の勾配とした場合の図面を再度作成する。また、木製園路の下に排水路等を設置する方針とし、堀東側の勾配についても木製園路の下で排水を処理できる勾配とする方針で、再度図面を作成する。修正した図面については、完成次第委員の方々にお送りし、ご意見をいただくこととする。
- ・屋上利用におけるバリアフリー対応について、エレベーターと階段昇降機を比較した場合、障害を持つ方などだれでも自由に使いやすいエレベーターの設置が望ましい。またエレベーターの塔屋をガラス張りとすることを検討する。
- ・便益施設の外壁色については、設計事務所において基本的なコンセプトに基づき検討を進めること。